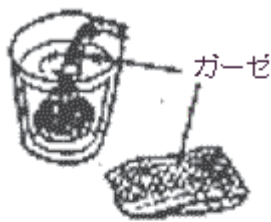


レタス

種子はガーゼなどに包んで一晩水につけた後、ガーゼに広げて包み直し、冷蔵庫に入れる。



覆土はふるいで、種子がやっと見えなくなるくらい、ごく薄く掛ける



発芽するまで新聞紙の上に稲わらを覆い、防曇、防乾を行う



レタスとガーデンレタスマックス

秋取りレタスの玉レタスやリーフレタスは、8月中旬が種蒔き適期です。それより早く蒔くと、高温のため花芽分化を引起し、とう立ちしてしまう恐れがあります。

種蒔きが遅れると、特に玉レタスの場合は、大きな玉が得られなくなることがあります。蒔き時を間違わないことが大切です。

【方法】レタスの種子の発芽温度は15～20度です。

種子は一晩水に浸して吸水させ、その後冷蔵庫のあまり低温でない場所（5～6度）に二晩入れ、芽が動き始めて種蒔きをします。

種蒔きは、育苗箱に7～8cm間隔に筋蒔きし、種子がやっと見えなくなるくらいにごく薄く覆土し、板切れなどで軽く鎮圧してください。

覆土した土の上には新聞紙を2枚重ね、その上を稲ワラで覆い乾燥と厚さを防ぐ対策をします。

発芽したら、覆いを取り、朝夕灌水して乾燥に注意します。

葉が重なり合わない程度に間引きして、本葉1枚の頃、苗床に9cm間隔で移植し、本葉4～5枚になったら、畑に植え出すようにします。

レタスにはご存知のとおり、結球する玉レタス、サラダ菜などの半結球レタス、そして結球しないリーフレタスの三つの仲間があります。

それぞれに数多くの品種がありますがここではリーフレタスについてふれてみます。

【方法】一番育てやすいリーフレタスの中で、見て美しく、食べておいしいガーデンレタスと呼ばれるグループの品種ですが、それも、一つではなく、5品種を混合して売り出しているガーデンレタス・ミックス（株サカタのタネ 発売品）です。

細葉で切れ込みの大きいオーク種、葉緑がフリル状に縮れるフリンジー種、各々緑色、赤色に、濃緑色・長卵形の品種の種子が混合されて袋に入っているのです。

とても育ちやすいものが選ばれているとみえ、揃って発芽し、生育もよく、大きくなるにつれて、色・形の違いがはっきり現れて、楽しみもひとしおです。

プランターに条蒔きにしてもよく、苗作りしてベッド植えしたり、花壇のふち取りや寄せ植えにしてガーデニングを楽しみ、そして食膳にのせるなど、育て方や使い方をいろいろと工夫してみるとよいでしょう。

種蒔きの際に、種子の形、色の違うものをよく混合して蒔きつけること、他のレタスと同じ覆土は種子がやっと見えなくなる程度にごく薄くし、その上を板切れなどで軽く鎮圧しておくこと、間引きのときも混合状態で残す株を決めること、などの留意が必要です。

若いうちに収穫したり、25日ぐらいの大株にしたり、好みの大ききでサラダなどに利用します。

見た目に彩りよく、歯触り、味もミックス調で、食卓の話題も広がること請け合いです。